

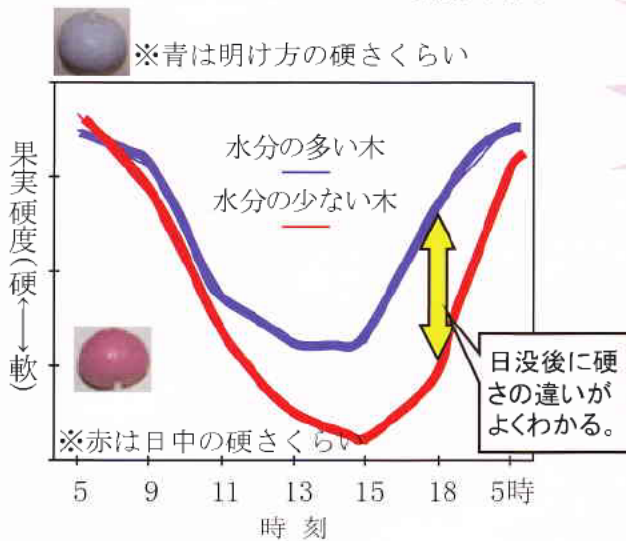
# 「水分チェック・ボール」による マルチ栽培ミカンの高品質化



マルチ栽培(H22年現在約100haに普及)の様子

- ◆糖度の高いミカン生産のためには、土壌を乾き気味に管理することが重要
- ◆雨水の侵入を防ぐマルチ栽培が有効
- ◆問題点:土壌を乾燥しすぎると商品性が低下(小玉化、高酸化など⇒過剰な水分ストレスが原因)
- ◆適正な土壌水分状態を簡易に把握し、かん水のタイミングを知る手法が必要

簡単にかん水のタイミングが把握できる  
水分ストレス管理指標  
「水分チェック・ボール」を開発しました!



日中は、葉からの蒸散が根からの吸水を上回るために果実が柔らかくなります。夕刻になると蒸散が少なくなり、土壌の水分が多い樹は吸水が速やかで早く硬くなりますが、土壌水分の少ない樹は吸水がおいつかず、明け方に向かってゆっくり硬くなります。このように、果実の硬さで水分の不足度(水分ストレス)が把握できます。水分チェックボールはこの原理をもとに開発したものです。

水分ストレス診断の様子

## ＜マルチ栽培での使用例＞

### ◆いつチェックするの？

2日～3日間隔で**日没後の午後7時頃**にチェックします。

### ◆どのくらい果実をさわるの？

1樹で数個、木の中層部の普通の果実でチェックします。

### ◆かん水が必要な基準は？

「青」より明らかに柔らかいと感じる時にかん水します。

### ◆かん水量は？

かん水は1回4t/10a程度を基準としますが、水源がない場合は、朝夕に分けて1tずつ2日間、あるいは1日1tを3日連続でかん水するなどの工夫をして下さい。



三重県農業研究所 紀南果樹研究室

〒519-5202 三重県南牟婁郡御浜町志原2327

TEL 05979-2-0008 FAX 05979-2-2679